

最高のドラマを演出した  
21人の戦士たち!

# 日本一

日本最高峰のシニア大会  
日本スポーツマスターズ  
七尾選抜チーム



# 突破・激闘・感動・奇跡の物語

— 3日間で45イニング！ 壮絶な戦いの軌跡 —

【1回戦】9月17日（土）

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
七尾選抜	0	2	0	0	0	0	1	0	0	3
八代クラブ（熊本県）	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2

●投手-捕手 越中、西川-大松 ●2塁打 松任

【3回戦】9月18日（日）

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
七尾選抜	1	0	0	4	0	0	0	0	0	5
安城仔馬（愛知県）	0	0	0	0	0	0	2	0	1	3

●投手-捕手 西川-大松 ●3塁打 木村 ●2塁打 松崎、高

【決勝】9月19日（月）

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
七尾選抜	0	0	1	0	0	0	1	2	2	6
チームN（北海道北）	0	0	0	1	0	0	0	2	0	3

●投手-捕手 石崎、寺井、越中-大松

【2回戦】9月18日（日）

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
大津市役所OB（滋賀県）	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
七尾選抜	0	0	3	0	0	0	3	3	×	9

●投手-捕手 越中-大松 ●2塁打 木村2、高

【準決勝】9月19日（月）

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
地鶏庵（高知県）	0	1	0	4	0	0	3	0	0	8
七尾選抜	3	0	3	0	2	0	0	0	1x	9x

●投手-捕手 越中-大松 ●3塁打 松任 ●2塁打 大松、松任、木村



5



2



3



4



1

1) 5試合中4試合に登板した越中投手 2) 準決勝の最大のピンチにマウンドに集まるナイン 3) ベンチからは声が途切れることがなかったナイン 4) ホームへヘッドスライディングする石崎選手 5) 決勝でタイムリーを打った松任選手 6) 一夜明けて、武元市長に優勝報告をする坂口監督と土倉主将

「一回戦が非常に苦しい戦いだった。選手が本当にかんばってくれ、優勝できたのもすべて選手のおかげ」と選手を称える坂口監督。「私も選手も、坂口監督を男にしようを合言葉に、一生懸命でした」と逆に坂口監督を称える土倉主将。短い会話に、すべてが詰まっていた。

これまでに県予選でも勝てなかったチームが、この大会で奇跡のドラマを演じた。その背景には、監督と20人の選手たちの強い信頼関係で生まれた結束力。つまり全国一のチームワークが、最終章『優勝』というドラマを完結させた。スタンドに集まった多くの観客は、土砂降りの雨の中でも、試合というドラマの一部始終に釘づけになり、感動を受け、心温かい応援をしていた。

もう次の勝負が始まっている。七尾市はシニア部門の強化が遅れている。この経験はどう活かすかは、野球協会や経験した選手がどのように考え、行動を起こすかだ。これからの動向に期待したい。

監督、そして選手の皆さん、『感動』をありがとう。



6